

東北大学附属図書館報



木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

－木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）－

目 次

○SPARC/JAPAN 採択誌「東北数学雑誌」… 1	○平成16年度新入生オリエンテーションの開催…18
○連載 和算資料の電子化(4) : 一関の和算……………5	○平成16年度蔵書検索講習会(初級編)の開催…18
○連載 和算資料の電子化(5) : 東北大学和算ポータルの公開……………9	○平成16年度特別企画展についてのお知らせ…19
○東北大学の思い出……………11	○第35回東北地区国立大学図書館協会総会…19
○平成15年度参考図書購入報告……………13	○会 議……………19
○平成15年度特別図書購入報告……………15	○附属図書館商議会議員名簿……………20
○附属図書館本館サービスの新たな展開 －学外の方への図書貸出－……………17	○人事異動……………21
	○編集後記……………22

SPARC/JAPAN 採択誌「東北数学雑誌」

東北大学理学研究科教授 西 川 青 季

日本の学術雑誌の電子ジャーナル化を推進し、わが国から発信する学術情報の国際的な流通をより促進するために、2003年から国立情報学研究所(NII)による「国際学術情報流通基盤整備事業(通称 SPARC/JAPAN)」が始まった。

2003年7月に、この事業に参画する学術雑誌が募集され、理学研究科数学専攻が刊行する「東北数学雑誌(Tohoku Mathematical Journal)」

が、パートナー誌のひとつとして採択された。

この事業への応募に際し、2003年8月に附属図書館により開催された SPARC/JAPAN 事業説明会が大変参考になった。また2004年1月には、国立情報学研究所ならびに附属図書館の共催のもとに、米国の電子ジャーナル・プラットフォーム「Project Euclid」に関するワークショップを東北大学において開催した。

現在、東北数学雑誌では国立情報学研究

所・SPARC/JAPAN 推進室の支援のもとに、電子ジャーナル化を進めている。この機会に、SPARC/JAPAN 採択誌となるまでの状況や、その後の経過と今後の課題について述べてみたい。

1. 東北数学雑誌について

東北数学雑誌は、日本最初の数学専門の学術雑誌として、1911年8月に、東北帝国大学理科大学の開学に先だって創刊された。数学科初代教授の一人であった林鶴一教授が、藤原松三郎、窪田忠彦、小倉金之助、石原純などの理科大学初代教官達の協力のもとに編集し、同教授の私費によって出版を始められたものである。

“林教授の先見性と大胆不敵さのみが敢えてなし得た”（藤原松三郎教授の言葉）この事業は、東北大学の教員の研究成果だけでなく、日英独仏伊の5カ国語のいずれかで書かれた論文で価値あるものであれば、著者が日本人であるか外国人であるかを問わずに掲載するという、国際的な学術雑誌としての高い理想を掲げて刊行され、その後の日本の数学の発展に大きく貢献した。

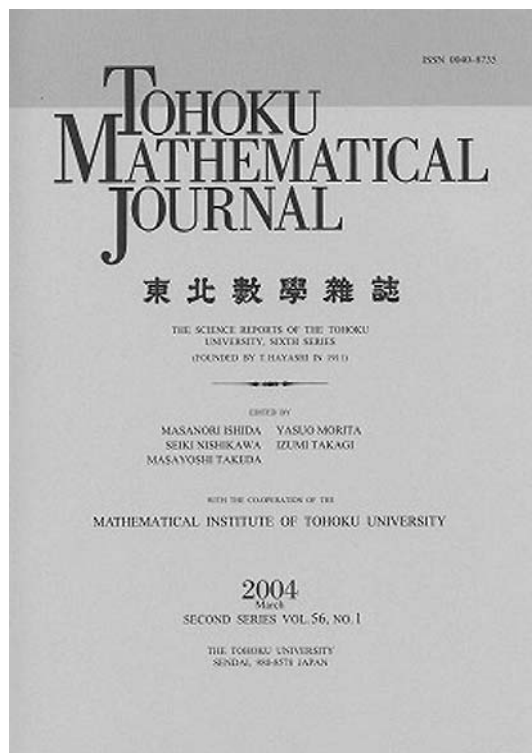


図1 東北数学雑誌最新号表紙

東北数学雑誌の出版にあたって、林教授の経済的負担は相当なものであったため、当時の澤柳政太郎総長の好意によって、国内外の大学・学会等への寄贈分は東北大学で買い上げて配布された。しかし、東北数学雑誌の基礎が確立され海外でも知られるようになると、会計検査院の指摘もあって、第9巻からは東北大学の刊行物に移管されることになった。

林教授は、終生編集主幹として東北数学雑誌の編集と発展に情熱を傾けられた。残念ながら、第二次世界大戦中に雑誌の発行も不可能となり、1943年発行の第49巻をもって第1輯は休刊となった。戦後に第2輯として再刊された東北数学雑誌は、1949年に第1巻を発行し、2004年現在第56巻に至っている。

東北数学雑誌の発行は年間1巻（4号、約600ページ）で、平均35篇の論文が掲載される。国内と国外からの投稿比率はおおよそ1対3で、採択率はほぼ35%程度である。

創刊当初より、東北数学雑誌は国内外の研究機関との間で積極的に雑誌交換を行った。また1972年からは、丸善株式会社を通じて全世界に向け販売することとなった。その結果、東北数学雑誌は世界中の主要な数学教室や数学研究所に必ず常備されているといっても過言ではない。

さらに1979年からは、Thomson-ISI社の発行するScience Citation Indexのソースジャーナルになっており、同社が発表するインパクトファクターにおいても日本の数学雑誌の中でつねにトップランクにある。

したがって、東北数学雑誌の流通度と認知度は大変良好な状態にあるといえることができるが、そのためにかえって電子ジャーナル化への対応が遅れてしまったといえなくもなかった。

2. SPARC/JAPAN に応募するまでの状況

私が東北数学雑誌の編集主幹を、前任者の小田忠雄教授から引き継いだのは1997年のことである。小田教授は1977年から20年間の長きにわたって編集主幹を務められ、とくに若手研究者の投稿論文に丁寧な赤字を入れられた。その結果、東北数学雑誌は国内外の若手研究者にとって登竜門ともいえる役割を果たしてきた。この

関門から育った研究者が、現在東北数学雑誌のレフェリーとして論文を丁寧に査読し、東北数学雑誌に論文を投稿し掲載されることが、世界中の研究者にとってインパクトファクター以上の価値をもつことになっているのは喜ばしいかぎりであり、雑誌にとって貴重な財産となっている。

さて私が編集主幹を引き継いだ際、小田教授から懸案の課題として提示されたのは

1. 編集および印刷工程のコンピュータ化
2. 著作権の処理
3. 電子ジャーナル化

の諸問題であった。

1980年代から、数学の論文の執筆は従来のタイプライターによる印字から、コンピュータ上で TeX を利用した原稿の作成へと変化してきた。TeX はスタンフォード大学の Knuth 教授が開発した文書作成プログラムで、とくに数式の記述に優れた柔軟性をもつため、現在ではほとんどの数学書がこのプログラムを用いて出版されている。

東北数学雑誌の印刷は1970年代から国際文献印刷社で行われてきたが、1997年当時同社でも、数式用の活字の摩耗が進み、従来のコンピュータ写植に限界を感じていた。そこで、第1輯から通巻で100巻目となる1999年発行の第51巻の刊行を機に、表紙のデザインを現在のものに一新し、編集・印刷のシステムも TeX を利用したコンピュータシステムに移行した。

著作権の処理については、日本で発行されている数学雑誌に共通することであるが、これまで各論文の著者に著作権の雑誌への譲渡を求めてこなかった。東北数学雑誌の場合、丸善からの販売を開始した当時、海外の研究機関からバックナンバーの購入申し込みが多数寄せられ、丸善からバックナンバーを再刊してはどうかと打診された。しかし著作権の許諾がなかったため、この計画は断念せざるをえなかった。

このような経緯から、著作権の処理は懸案の問題となっていたが、各論文の著者の権利と雑誌側の権利とのバランスや、電子ジャーナル化を考えた際の著作権の範囲など、どのような条件で著者に著作権の譲渡を求めるのが適切かの

検討に、思いのほか時間を費やしてしまった。

最終的に、東北数学雑誌でも、アメリカ数学会が発行する数学雑誌が採用している条件に準拠した形で許諾を求めることとし、現在では2000年以降に掲載された論文について著作権譲渡の同意を得ている。それ以前に出版された論文について、著作権の許諾をどのように求めるかは今後の課題である。

電子ジャーナル化の問題については、編集主幹を引き継ぐ以前に、Springer 社から、東北数学雑誌の販売と同社が運営する電子ジャーナル・プラットフォーム LINK から電子ジャーナルを出版することの可能性を打診されていた。

一方、丸善との販売契約も30年近くになったので、契約内容の確認を兼ねて話し合いをもったところ、丸善側からも電子ジャーナルを出版したいとの申し出を受けた。

そこで2003年春から、東北数学雑誌編集委員会と Springer 社の東京編集部や丸善株式会社学術情報ナビゲーション事業部との間で、電子ジャーナル化の条件について検討を始めたところ、SPARC/JAPAN 事業説明会が東北大学で開催され、国立情報学研究所の国際学術情報基盤整備事業の内容を知ることとなった。

3. SPARC/JAPAN 選定誌に決定後の状況

この説明会が契機となって、米国におけるプロジェクト SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) の活動内容と SPARC/JAPAN 参画英文論文誌の公募条件を検討し、参画提案書を提出した。(SPARC の活動に関しては、木這子 Vol. 28, No. 4 所載の米澤誠「学術コミュニケーションの変革としての SPARC 活動」を参照されたい。)

幸い2003年9月に、パートナー誌として選定されたとの通知を受け、早速2003年10月に、国立情報学研究所によって、SPARC/JAPAN 選定誌となった21誌の代表者を集めて SPARC/JAPAN 作業グループ合同会議が開催された。この合同会議とその後の SPARC/JAPAN 推進室との会議によって、東北数学雑誌の電子ジャーナル化に関して、商業出版社が運営する電子ジャーナル・プラットフォームだけでなく、

非商業出版社系のプラットフォームについても検討する必要性を強く感じた。

そのような折りに国立情報学研究所から、米国 SPARC が支援する数学・統計学分野の電子ジャーナル・プラットフォーム「Project Euclid」の代表者を招いてワークショップを開催してはどうかとの提案を受けた。同時に附属図書館からも全面的なバックアップをいただけるとの知らせを受け、2004年1月に、Project Euclid を運営する Cornell 大学から同プロジェクトの責任者 Teresa Ehling 氏とシステム開発の責任者 David Ruddy 氏を招いて、東北数学雑誌編集委員会および SPARC/JAPAN 推進室との間で東北雑誌の電子ジャーナル化に関して協議を行うとともに、全国の数学雑誌の編集者を対象に Project Euclid に関するワークショップを開催した。

このワークショップには、開催日の当日仙台が大雪に見舞われたにもかかわらず、日本の主要数学雑誌19誌の編集関係者26名と図書館関係者を合わせて計54名の参加があった。このような規模で日本の数学雑誌編集者が一堂に会したことは過去になく、またこのワークショップにおいて Project Euclid 関係者との間で行われた活発な質疑応答から、各数学雑誌の電子ジャーナル化に対する関心の高さと抱えている問題の多様さが浮き彫りにされ、このワークショップは大変有意義なものとなった。とくに数学の分野では、世界的にみても各研究機関が刊行する学術雑誌の占めるウエイトが高い。したがって、学術雑誌を取り巻く世界的な潮流や変革に適切に対応し、国際的な連携を押し進めていくためには、各雑誌と大学図書館との連携をさらに深めていくことが重要であると痛感した。

東北数学雑誌の場合、電子ジャーナルの出版にあたって、その価格設定やサイトライセンス、パッケージ化などの国際的販売戦略だけでなく、これまで雑誌交換を行ってきた国内外の研究機関への公開方法や販売をどうするかが、非常に重要な問題である。SPARC/JAPAN 推進室や附属図書館の協力のもとに、早急にこの問題への解決策を見だし、できるだけ早く電子ジャーナル化を軌道に乗せたいと考えている。

4. 今後の課題

東北数学雑誌の創刊以来の論文のタイトルと著者名はデータベース化され、すでに東北数学雑誌のホームページにおいて公開されている。また1998年からは学術情報センター（現在は国立情報研究所）の「学術雑誌目次速報データベース」に目次内容を公開し、2000年以降に発行の巻については論文タイトルと著者名および論文アブストラクトをホームページにおいて公開している。



図2 東北数学雑誌ホームページ表紙

しかし、学術雑誌の国際的認知度を向上させるためには、これらの取り組みだけでは不十分で、電子ジャーナル化を果たすとともに、海外の電子ジャーナルとの連携や相互リンク、海外頒布などを充実させていく必要がある。

とくに数学の分野においては、出版された論文の寿命（引用される期間）が平均10～20年と長い。また数学の研究には、数十年、数百年経った文献も最新の論文と同等に重要である。したがって、最新の研究成果の流通を電子ジャーナル化によって促進するとともに、過去に出版された論文についてもデジタル化を進め、オンライン上のアーカイブとしてアクセスできる体制を整えることが必要不可欠といえる。その意味でも、東北数学雑誌に出版されたすべての論文をデジタル化し、電子ジャーナルと同じプラットフォームで利用できるように公開することが今後の重要な課題である。

（にしかわ・せいき）

連載 和算資料の電子化（４）：一関の和算

一関市博物館学芸員 相 馬 美 貴 子

はじめに 一関市博物館について

一関市は、岩手県の南部に位置し、ちょうど盛岡・仙台の中間点に位置します。江戸時代には、現在の市域は、仙台藩とその支藩である一関藩田村氏の支配に分かれていました。

一関市博物館は、国指定の名勝天然記念物厳美溪^{げんびけい}の近くに平成９年に開館した人文系の博物館です。常設展示は、地域の歴史の流れを紹介した「一関のあゆみ」と、地域の歴史的個性を示すテーマ展示から構成されています。テーマ展示は、日本刀の成立に影響を与えたといわれる舞草刀^{もくさとう}を中心とした「舞草刀と刀剣」、一関出身の蘭学者大槻玄沢のあゆみと地域の蘭学をとりあげた「玄沢と蘭学」、玄沢の孫である国語学者、大槻文彦と国語辞書『言海』の成立を扱った「文彦と言海」、そして日本有数の和算隆盛地であったことから和算をとりあげた「一関と和算」という４つの展示室で構成されています（図１）。

一関の和算家

一関の和算の流れをたどると、一関藩の家老を務めた梶山^{つぐとし}次俊（宝暦13年（1763）～文化元年（1804））にいきつきます。代々、天文暦算の家柄で、藩侯の命により財政上の用務で江戸に赴いた時、関流四伝（関孝和の四代目の弟子）の藤田^{さだすけ}貞資の門に入り算学を勉強したと伝えられています。梶山についての資料はあまり残っていませんが、藤田貞資の『神壁算法』に、天明５年（1785）に芝愛宕山に奉納した額（算額）が収録されています。梶山次俊は、関流七伝千葉胤秀と、最上流直伝斉藤尚仲という高名な門人を育てています。

斉藤^{しやうちゆう}尚仲（安永２年（1773）～弘化元年（1884））は、一関市との境にほど近い平泉町（当時平泉村）に生まれた人です。梶山に学んだ後、江戸にでて、当時藤田貞資らの関流に対抗して最上流を興していた会田安明のもとで最上流和算を学び、その後継者となっています。



図１ テーマ展示室「一関と和算」

後に会田の故郷山形で和算の教授にあたっています。晩年には帰郷し、109巻の算書を写し伊達藩侯に上納したといいますが、齊藤の主たる活躍の場は山形で、この地方の和算に大きな影響を及ぼしたのは千葉胤秀でした。

千葉胤秀^{たねひで}は、齊藤尚仲に2年遅れた安永4年（1775）に清水村（一関藩領、現在の花泉町）の農家に生まれ、後に峠村の農家に養子に入っています。峠村の家は現在、千葉胤秀旧宅として花泉町の文化財に指定され保存されています。胤秀は、幼いころから数学が好きだったといい、梶山に学んだ後は、近在の村々を訪ねて和算の出張教授を行うようになっていました。文政元年（1818）、43歳位の時、出張教授先で、東北地方を和算を教えながら旅していた山口和^{かず}という人とめぐり会います。山口は越後水原の生まれで、江戸で関流和算の道場を開いていた長谷川寛^{ひろし}の門下生となり、全国を旅した遊歴和算家です。胤秀は山口に啓発され、まもなく江戸にでて長谷川寛に入門し、やがて関流の免許も得て、文政13年（1830）に『算法新書』を編集しています。『算法新書』は、初心者でも独習できるように、数の唱え方や珠算に必須であった割り算九々などの基本的な事項から、当時の和算最高の術といわれた円理の方法までをわかりやすく解説したもので、好評を博して版を重ね、明治期になっても一部改訂されて出版されています。

胤秀は、数学の功績を認められ士分にとりたてられ、城下に移って算術師範役となることを命ぜられています。農民出身の胤秀が、藩士の子弟に和算を教授することになったわけです。そればかりではなく、七代藩主田村邦顕^{くにあき}は、自ら問題を作って胤秀に答えを求めていますし、次代の田村邦行^{くにみち}は、胤秀から免許皆伝を受け、胤秀の算学道場に「探索」と書いた直筆の額を与えて掲げさせています。田村氏は代々好学の人物が多いとされていますが、この二人の藩主の和算に寄せる関心の深さは特筆すべきものといえます。

胤秀が育てた門人は数多く、今回は紹介しきれませんが、宮城県佐沼の農民で旧名佐藤秋三郎、後に長谷川寛を継いだ長谷川弘^{ひろむ}も、胤秀がその才を見出して江戸につれていった人です。

胤秀は、嘉永2年（1849）、75歳で没していますが、息子や孫が中心となり、またそれぞれの門人たちによって、この地方では関流の和算が盛んに学ばれています。また、農民層が多く学んだこともこの地方の特徴の一つといえます。

「和算」という言葉は、江戸末期に伝来した西洋式の数学を「洋算」と呼んで従来の数学と区別したことから生まれたもので、言葉自体は和算の歴史に比べれば新しいものです。そして明治5年（1872）の学制により、学校教育で洋算を採用することになりますから、「和算」は、その言葉の誕生と同時に次第に学ばれなくなる運命をたどることになるわけです。

そのような中でも、一関周辺では優れた和算の先生が多かったこともあってか、なお和算が学ばれ、青年教育に貢献していました。初歩的な和算教育の名残は昭和30年ごろまで見出すことができます。昭和の初めには、『関流数学交友会』が組織され、和算の普及と研究が行われています。その会の会長を務めた石川幸平氏の家には、江戸の長谷川家から千葉家を経て伝えられたと思われる関孝和の肖像画が残されていました（図2）。石川幸平氏は、和算史を研究されていた東北大学（当時東北理科大学）の林鶴一氏とも交流があったようです。



図2 関孝和の肖像画

日本一多い算額

一関周辺が和算が盛んな地域であったことを実感できるのは、和算の教えを受けた門弟たちが先生を顕彰するために建立した石碑と、算額が数多く残っていることです。

とりわけ算額は、一関市内に市町村としては全国一の29面あり、隣接する花泉町、川崎村にはそれぞれ11面と8面があります。さらにいえば、岩手県内の算額は98面で、全国一の福島県111面に次いで2位となっています。ちなみに3位は埼玉県88面で、宮城県は44面が確認されています。深川英俊氏の『例題で知る日本の数学と算額』（森北出版、1998年）によれば、全国の算額の数、884面となっていますから、岩手県およびこの地域の算額密度の高いことが推し量られると思います。最も東京には、現存する算額は16面ですが、記録によって他に368面の算額が存在したことを確認できるといいます。奉納された実数としては、もっと多く、全国各地にあったのです。

ところで、算額とは何かについて説明していませんでした。算額とは、数学の絵馬というべきもので、和算家が自作の問題を書いて寺社に奉納したものです。問題を作ったのは、1人の場合もありますが、同じ先生につく門弟たちが1人1題ずつ集め、数人でまとめて奉納したものもあります。

数学の問題というのは、何日かかっても解けなかったものが、ある時ひらめいて解けること

があるそうです。これを天啓と考えて、神仏に感謝したり、さらなる向上を祈願する意味で奉納したと考えられています。そして、人々の集まる寺社に掲げられた算額の多くは、色美しく彩色された図形の問題が載せられており、訪れる人の目をひきつけたので、算額は、数学問題の研究発表のような意味ももってくるようになりました。各地の算額を研究して旅をする人が現れたり、また算額の問題を集録した本も出版されたり、算額の問題や解法に対して別な考えを示したり批評をする人も現われています。算額という発表手段が、和算の発達を促したともいえるのです。

日本で最古の算額は、栃木県佐野市星宮神社にある天和3年(1683)に奉納されたものです。文献では、福島県白河市境明神に明暦3年(1657)に掲げられた記録があります。一関周辺の算額は比較的新しく、千葉胤秀以後、19世紀中ごろ以降のものです。

写真は、当館で常設展示している一関八幡神社の算額です。火災にあい焼けてしまったものを復元したのですが、天保9年(1838)12月に千葉胤秀の門人たちが奉納したものです。1枚に11題書かれて、推定復元した大きさで縦110cm、横195cmと大きいものです。これが2枚一組で22題、つまり22人によって奉納されています。色鮮やかで、各人の自信の問題をアピールした奉納当初の姿に復元したものです(図3)。



図3 一関八幡神社算額(復元)

数学の問題といっているいろいろあるわけですが、算額には、図形の問題が圧倒的に多くなっています。ほとんどが、彩色して図形を示し、「問曰…」「答曰…」「術曰…」と、問題、答え、術（解法）を漢文で簡潔に示し、奉納者の氏名を記しています。限られたスペースに効果的にプレゼンテーションするには、彩色した図形問題というのは、魅力的な素材であったにちがいありません。

算額には、術として解法が示されているとはいっても、数ページにも及ぶ解法のうち、答えがでる一つ前の式を書いているようなもので、それをてがかりに問題を解くのは難しいようです。岩手県内の算額を全て調査した安富恒氏は、『和算－岩手の現存算額のすべて』（青磁社、1987年）で、岩手県内の算額問題の難易について、中学生で十分解ける程度のものから高校生向きのもの、更に程度の高いものまで色々であるが、概観して高校生以下で解けるものは、約1割以下と述べているので、大学生レベルの高度なものがほとんどということになります。

一関市内にある観音寺に弘化4年(1847)に奉納された算額には、13歳の佐藤亀蔵が作った問題が含まれています(図4)。算額の問題は、現代人の知的好奇心もくすぐるものです。13歳の子と馬鹿にせずに解いてみてはいかがでしょう。

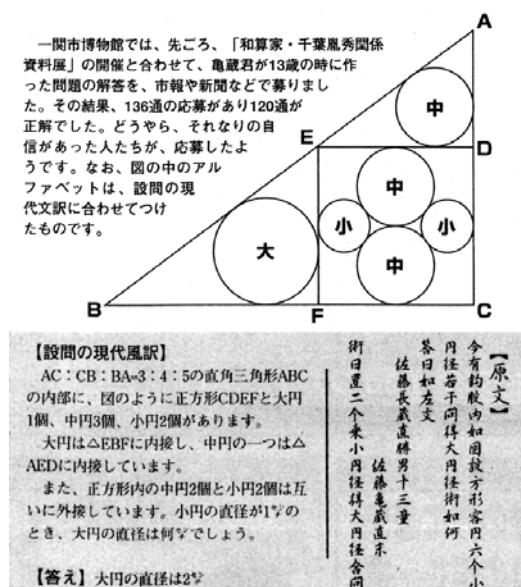


図4 佐藤亀蔵（13歳）の算額問題

当館では、年末年始にかけて算額問題に現代数学で挑戦していただき、解答を郵便で送ってもらう『和算に挑戦』をここ2年ほど行っています。平成16年度も12月頃に募集しますので、ホームページ等でアクセスしてみてください。

おわりに

東北大学附属図書館では林文庫、狩野文庫を中心とした有数の和算資料を所蔵し、インターネットによるデータベース公開の計画も進んでいるとうかがっております。和算は、江戸文化としてあるいは数学教育の面でも見直され、算額の問題が数学オリンピックで出されるなど、内容が数学であるだけに国際的にも注目されているように感じています。インターネットによる公開は、このような動きに有効に 대응できるものと思います。

今回一関の和算について紹介させていただく機会をいただきまして、東北大学附属図書館に感謝申し上げます。

また、当館のテーマ展示「一関と和算」の展示室では、一関地方で伝えられた「数学手引歌」の映像や、和算での数学遊戯の体験コーナーなど紹介しきれなかった部分もありますので、ご観覧いただければ幸いです。

(そうま・みきこ)

一関市博物館

〒021-0101

岩手県一関市巖美町字沖野々215

Tel 0191-29-3180

Fax 0191-33-4006

<http://www.museum.city.ichinoseki.iwate.jp>

連載 和算の電子化（５）：東北大学和算ポータルの公開

総務課情報企画係長 米 澤 誠

本学所蔵の和算資料を、広く一般に公開するため着手した第１期の電子化作業が完了し、平成16年６月から和算資料の全文画像を順次ウェブで無料公開しています。

ウェブでの公開にあたっては、「東北大学和算ポータル」を新設し、全文画像のみならず、和算資料目録データベースや展示会で使用した解説資料などを利用することができるようにしました。その内容を簡単に紹介します。

URL:<http://www2.library.tohoku.ac.jp/wasan/>



図１ 和算ポータルトップ画面

１．和算資料全文画像データベース

このポータルの最大の目玉である全文画像データベースは、次の５つのものに分けたリスト形式目録から利用できるようにしました。

- ・塵劫記・改算記類
- ・江戸前期刊本
- ・江戸後期刊本
- ・漢籍類
- ・東北関係和算資料

第１期の電子化では、和算資料の中から刊本を中心に選定しました。和算関係資料コレクションの中には、同じ著作について同版・異版

を含めて複数の資料を所蔵する場合があります。その場合は、資料の状態のよいものを選択して、電子化を行いました。ただし、１著作について１点だけ電子化するのではなく、可能であれば必ず複数点電子化するようにしました。

同じ著作について、数種類の同版・異版の資料を電子化できるというのは、本学和算コレクションならではの特色といえます。これにより、版の異なる複数の資料を、居ながらにして比較できるという画期的な研究環境が実現したことになるのです。

第１期では、塵劫記・改算記類だけでも98点電子化することができました。「塵劫記・改算記類」のリストには、次のように多くの同版・異版を収録しています。

No.	標題	編・著者	刊記 (西暦)	請求記号	注記	データ/ リールNo.
1	塵劫記 上・下巻 2冊	吉田光由 編	寛永8年 (1631)	林文庫 0543	全2巻48条。大本。目録に吉田印。彩色図あり。	ws000185 J001-01
2	塵劫記 上巻 1冊	吉田光由 編	寛永8年 (1631)	林文庫 0544	全2巻48条。大本。目録に吉田印。	ws000186 J001-02
3	塵劫記 上・中・下巻 3冊	吉田光由 編	寛永4年序 (1627)	岡本刊 004	全3巻48条。大本。目録に吉田印。	ws000183 J001-03
4	塵劫記 上・下巻 2冊	吉田光由 編	寛永11年跋 (1634)	林文庫 0547	全2巻48条。大本	ws000185 J001-04
5	塵劫記 下巻 1冊	吉田光由 編	寛永4年跋 (1627)	林文庫 0548	全2巻48条。大本。目録に吉田印。	ws000187 J001-05
6	塵劫記 一〜四巻 2冊	吉田光由 編	寛永4年序跋 (1627)	岡本刊 005x	全4巻28条。大本	ws000184 J001-06
7	塵劫記 三・四巻 1冊	吉田光由 編	寛永4年跋 (1627)	狩野 7.31265.1	全2巻28条。大本	ws000238 J001-07
8	塵劫記 三〜五巻 2冊	吉田光由 編	寛永9年 中野市右衛門 (1632)	林文庫 0545	全5巻50条。大本	ws000188 J001-08
9	塵劫記 五巻 1冊	吉田光由 編	寛永9年 中野市右衛門	林文庫 0546	全5巻50条。大本	ws000189 J001-09

図２ 塵劫記・改算記類リスト画面

全文画像は、リスト中の資料名をクリックすることで閲覧することができます。資料の先頭から全文を閲覧することも可能ですし、縮小画像のサムネイルから見たい部分のあたりをつけて、それから表示することも可能です。本文の画像は、複数ウィンドウで表示できますので、

同じ資料の中の別の個所や、異なる版の資料の同一個所を簡単に比較することが可能となっています。

当初は出揃っていませんが、資料解題も順次加えていく予定です。



図3 本文一覧画面・本文表示画面

2. 和算資料目録データベース

このポータルのもう一つの魅力は、本学和算資料（正確にいうと「和算・自然科学関係と漢古典書」）目録データベースを活用できることです。この目録は、書名、著・編者名などから検索できるとともに、検索結果を書名順や請求記号順に並べて表示することができるため、必要とする資料を非常に効率よく探すことができる優れたツールです。和算資料の利用者の方のための事前調査にも有用で、私自身大変重宝しています。試しに「塵劫記」で検索すると、388点の資料が表示されました。

書名や著者名の途中の文字列単位で検索することが可能ですので、正確な書名や人名が分からなくとも、なんとか検索できることも優れている点です。

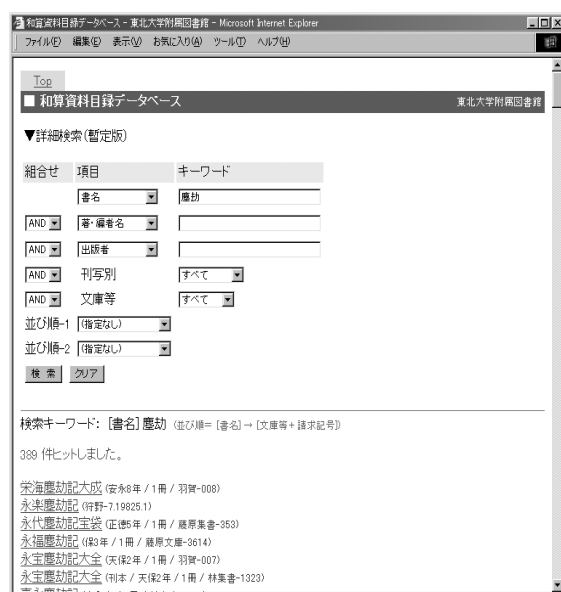


図4 和算資料目録データベース検索画面

3. 今後の課題

ようやく和算資料のウェブ公開が実現したわけですが、よりよいポータルにするための課題が残っています。それぞれの資料に解題を加えることとともに、英文の情報を付加することが次の目標です。和算という日本独自の文化・学問の存在を広く世界に発信するには、英文化は必須です。またその時は、世界標準のメタデータでの発信も実現しなければなりません。

平成16年度は第2期として、これも豊富な写本群の電子化を進める予定です。この写本部分の電子化が実現した暁には、一部の研究者だけしか目にするのでできなかった和算資料の全貌が、世界で初めて公にされることになるのです。これは、和算の専門研究者のみならず、科学史研究者や江戸研究者、和算愛好家、数学教育者など広範囲の人々にとって画期的な出来事になるものと期待しています。

※両データベースのシステム設計・開発は、照内弘通（情報シナジーセンター学術情報支援係長）が担当。

（よねざわ・まこと）

東北大学の思い出

附属図書館工学分館 川 村 隆 男

日本の高度経済成長期、集団就職の時代の昭和38年に東北大学に就職することになりました。寒い冬の12月に青森の片田舎から長靴を履いて仙台に来ました。配属先は、1月1日付けで通研の計算センターでした。後で分かったのですが、1ヶ月早く採用されていればボーナスがもらえたそうで、残念なことをしてしまいました。

東北大学での勤務先は、通研、工学部、本館、医分、工分、農分です。そのうち、図書館員としては27年間お世話になり、先日、東北地区大学図書館協議会から表彰状と記念品を頂きました。皆様のおかげをもちまして定年まで勤めあげることができました。

図書館では、図書館業務の電算化、書庫改修・環境整備記念事業、図書館100年史の作成、学術情報整備計画等の貴重な大事業を経験させていただきました。

工学分館には、管理掛長、整理・運用掛長としての5年間及び専門員としての7年間、合計12年間、9名の分館長にお世話になりました。工学部には、工学分館を含めて21年間お世話になり、公務員生活の約半分が工学部勤務ということになります。

41年3ヶ月の公務員生活で印象に残っていることは、まず第1には、宮城県沖地震（昭和53年6月12日午後5時14分発生）のことです。当日私は、延長開館当番にあたっており本館1号館2階の開架閲覧室のカウンターで当番をしておりました。開架閲覧室は、多数の学生がおり停電及び約1万冊の図書の落下散乱等がありましたが、午後5時半頃にはほぼ利用者全員を無事退去させることができました。また、落下す

る図書による人身事故が学生にも館員にもなかったことは幸いでした。

第2には、平成3年12月11日に農学部の研究室から火災が発生し、研究室の図書が焼失したため、火災現場の写真撮影・整理、書類の作成等のため、年末・年始の休みを返上して、報告書を作成したことが思い出されます。

第3には、本館の書庫改修・環境整備記念事業のことです。平成5年12月に第二次補正予算約5億円の内示があり、本館1号館地下1階及び2階の北側に電動集密書架を導入することになりました。私が、農学分館図書掛長から本館閲覧第一掛長として着任した平成6年当時の本館1号館書庫には、約74万冊の図書があるといわれていました。その図書の約半分の35万冊が約16,000箱のダンボール箱に入れられて、本館の視聴覚室、2号館等に5～6段に重ねて山積みされており、それを見せられてこれを片付けるのがあなたの仕事です。といわれたときは、本当にびっくりしました。作業は平常開館で日常業務を行いながら実施されました。大変な作業にご協力下さいました皆様に感謝申し上げます。

第4には、本館における漏水及び雨漏りのことです。大雨の時に地下及び地下道への漏水のため、職員が協力してバケツで水を汲み上げる等の作業をしたこと。1階天井からの雨漏りのため、天井にシートを張ってカウンター業務をしたこと。2階開架閲覧室天井からの雨漏りのため土曜・日曜に家族を連れて出勤し、書架にシートを張ったこと。2階光庭から1階事務室への雨漏り、1号館書庫等の雨漏りのため、バケツをあちこちに置いて歩いたこと等が思い出

されます。

第5には、平成9年4月に初代の工学分館専門員として着任しましたが、またしても新館ホールに約4,000冊の重複製本雑誌が、約250箱のダンボール箱に入れられて山積みになっておりました。平成10年度に新館ホールを新着雑誌閲覧室とするための予算約1,000万円がついたため、ダンボール箱に入った重複製本雑誌を当時の工学分館男子職員4名で片付けたことです。私はそのため身体を痛めて八木山の針灸院に通院することになってしまったことが思い出されます。

平成11年度には、サイン計画のための予算約500万円がついて実施できたこと。平成15年度

は、私の公務員生活最後の年となりましたが、念願の自動入退館管理システム導入のための予算約1,420万円を工学部・工学研究科、情報科学研究科、環境科学研究科で分担して頂いて導入できたこと。新年度から工学部・工学研究科の警務員が、夜間及び土曜・日曜・祝祭日に工学分館の館内見廻りをして頂くことになったこと等が印象に残っております。まだ、身体障害者用エレベータ、電動集密書架の導入等の課題はありますが、41年3ヶ月の間、沢山の方々のお世話になりました。

皆様に感謝を申し上げ、東北大学勤務41年3ヶ月の思い出といたします。

(かわむら・たかお)

平成15年度参考図書購入報告

参考図書費（本学共通経費，川内地区部間共通費等）により平成15年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

（情報管理課）

◆ 主な継続受入資料 ◆

Book page 本の年鑑 2003
imidas = イミダス 2004
ブリタニカ国際年鑑 2003
音楽年鑑 2003
河北年鑑 2004 = Data Book 東北 2004
会社職員録 全上場会社版 2004 上，下巻
会社職員録 非上場会社版（2003）上，下巻
会社年鑑 上場会社版 上，下
官報総索引 2002
近代雑誌目次文庫 51－52. 社会学
近代政治関係者年譜総覧 追補戦後篇第 1－2 巻
近代政治関係者年譜総覧 追補戦前篇第 1－2 巻
現代用語の基礎知識 2004
国語年鑑 2003年版
雑誌新聞総かたろぐ 2003年版
宗教年鑑 平成14年版
図書館年鑑 2003
世界国勢図会 2003/04
世界児童青少年文学情報大事典 10－11
全国学校総覧 2004
全国試験研究機関名鑑 2004－2005 第 1－3 巻（CD-ROM 付）
全国大学職員録 平成15年版 国公立大学編
全国大学職員録 平成15年版 私立大学編
全国短大・高専職員録 平成15年版
台湾総督府文書目録 第15巻
知恵蔵－朝日現代用語－2004
中国書籍総目録 1997/1 第89－93巻
中国年鑑 2003年版
読売年鑑 2004 付別冊
日本の出版社：全国出版社名簿 2004
日本国勢図会 2003/04
日本著者名総目録 2001/2002 1－4
日本法令索引 現行法令編 平成14年版
日本歴史地名大系 1. 北海道の地名
美術年鑑 平成16年版
理科年表 76冊 平成16年版
歴史学事典 11. 宗教と学問
六法全書 平成15年版 1－2

American reference books annual v. 34 2003
Books in Print 2003-2004
Books in Print. Supplement. Supplement 2002-2003
Britannica book of the year. 2003
Commonwealth universities yearbook 2003-04
Comprehensive dissertation index. Supplement 2001
Contemporary Authors. 2003
Dictionary of American regional English v. 4
Dizionario biografico degli italiani 60-61
Enciclopedia universal ilustrada europeo americana. Apendice 1934-2002
Enciclopedia universal ilustrada europeo americana. Suplemento 2001-2002
Encyclopaedia Indica : India, Pakistan, Bangladesh Vol.131-150
Encyclopedia of library and information science 2nd ed v. 1-4
Grande enciclopedia portuguesa e Brasileira : Livro do ano 1998-2000
How to write & publish a scientific paper 5th ed : pbk
IBN : index bio-bibliographicus notorum hominum Pars C Vol.117-121
IBN : Index bio-bibliographicus notorum hominum Pars C Vol.99/4-6
IBZ. v.38 2002
International handbook of universities. 17th ed.
International Who's who 2004 (67th ed.)
Les livres disponibles = French books in print 2004
McGraw-Hill Yearbook of Science & Technology 2004
Medical Subject Headings : 2003
Neue deutsche Biographie Bd. 21 auf CD-ROM
Study abroad 2004-2005. 32ed.
The bowker annual of library & book trade almanac 48th ed. 2003
The europa World Year Book 44th ed. 2003 Vol.1-2
The Oxford chronology of English literature v. 1-2
The Statesman's year-book 140th ed. (2004)
The United States government manual 2003-2004
The world almanac and book of facts 2004
The world of learning 54th ed. 2004
Ulrich's international periodicals directory 42ed. 2004 v.1-4
Verzeichnis Lieferbarer Bucher 2002/2003. Ergänzungsband 2003
Verzeichnis Lieferbarer Bucher 2003/2004 1-12
Wer ist wer? : Das deutsche who's who Bd.42 (2003-04)
Whitaker's Almanack 2004. 136th ed.
Whitaker's books in print 2003 vol.1-5
Who's who 2004. 156th
Who's who in America 2004. 58th ed. Vol.1-3
Who's who in france 35ed. 2003-2004
World guide to scientific associations and learned societies 8th ed
Книга : исследования материалы. 80

◆ その他の主な受入資料 ◆

リサイクルの百科事典
安全の百科事典
リーガル・リサーチ
古筆大辞典
食料の百科事典
図書館情報学用語辞典 第2版
繊維の百科事典
知的財産権事典
日本語大シソーラス

平成15年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部科学省配分）によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

（情報管理課）

番号	資 料 名	内 容	出 版 形 態
1	東京裁判への道 ―国際検察局・政策決定 関係文書―	この資料集は、アメリカ合衆国国立公文書館に所蔵される国際検察局文書の膨大な資料群から「東京裁判開廷」にかかわる重要資料を整理・編集して収録刊行したものである。1945年から46年にかけての英文資料により構成されている。	図 書
2	四部叢刊 初編・二編・三編 （電子版）	1910年代から1930年代にかけて、中国の商務印書館が、長い歴史を経てきた中国の文献にとっては版の善悪は特に重要であるという見地から、古典の重要なものについて、当時入手できる最上の版450種余りを集めて写真印刷した叢書が「四部叢刊」であるが、本資料はその文字データと画像データをともに収めたものである。中国学のみならず、日本史、日本思想史、国文学、国語学、東洋日本美術史、考古学、文化人類学等の研究にも有用である。	CD-ROM
3	Hastings Center Report. Vol. 1-31 （ヘイスティングズセンター報告書）	1969年創立、ニューヨーク州にある生命倫理学最古の研究所が発行している学術誌。	図 書
4	日本の絵巻物 伴大納言絵 全3巻	出光美術館所蔵国宝「伴大納言絵」の原寸大復刻本。デジタルオールカラー。	図 書
5	稀覯往来物集成 第1巻～第32巻	「往来物大系」全100巻（東北大学附属図書館は既に所蔵）に未収録の稀覯書218点を集成したもの。全国唯一から2～3点程度の稀少な往来物や、全国10点以内で資料性の高いものばかりを収録している。「国書総目録」や「古典籍総合目録」には未掲載のもの、一般公開されていない往来物が多数含まれている。「往来物大系」収載の757点と「稀覯往来物集成」によって今日までに発見されている主要な往来物の全てを網羅して、比較・検討が可能となる。	図 書
6	日本外交史人物叢書 全27巻	近代日本の外交に携わった重要な外交官の自伝・伝記・回想録等のうち、貴重であるが現在では入手しにくい名著の集成。戦前戦後の日本政治外交史・行政史の基本資料である。	図 書

番号	資料名	内 容	出版形態
7	North China Herald, 1884-1893	19世紀半ばから20世紀半ばにかけて、上海で発行された英字新聞で、欧米諸国の対東アジアの政治・経済の動向を知るための貴重な基礎資料。	マイクロフィルム
8	The Worshipful Society of Apothecaries of London. Records and Account Books, 1606-1954 (ロンドン薬種商（薬剤師）組合の史料集)	ロンドンの薬種商（薬剤師）の組合の歴史について、その創設期の1606年から現代（1954年）までの資料を集めたマイクロフィルムである。Apothecary は単に薬の売りに従事しただけでなく薬剤師でもあり、医師との関係でも興味ある問題を含んでいる。従って、この組合の会議議事録、会計簿、規約等が収録されているこの資料集は、イギリスとりわけロンドンの医療発達史を研究する上で不可欠であり、また古いギルド組織が現代の薬剤師協会に連続してゆくプロセスなどの社会史的研究にとっても貴重である。	マイクロフィルム
9	Dictionary of American History (アメリカ歴史事典)	米国史に関する4400項目（100～8000語）を記載した、定評ある事典の全面的改訂版。	図 書
10	Cambridge Handbooks for Language Teachers. (ケンブリッジ語学教師ハンドブック叢書)	語学教育の具体的実践法について多角的に解説。	図 書
11	Cambridge Language Teaching Library. (ケンブリッジ語学教育ライブラリー)	語学教育の諸分野についての理論的・実践的研究叢書。	図 書
12	Curriculum Studies. (カリキュラム研究論文集成) 全4巻	教育カリキュラムの紹介。本4巻セットはカリキュラムに関する現代の論文を幅広く収録している。	図 書
13	Early English Books. STC2. Unit 124-125 (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
14	Parliamentary Debates(Hansard). House of Lords 5th ser., Vols. 638-645 (英国議会上院議事録) House of Commons 6th ser., Vols. 389-392, 394-397(英国議会下院議事録)	英国議会下院における会期毎の議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図 書

附属図書館本館サービスの新たな展開 —学外の方への図書貸出—

情報サービス課 閲覧第一係

附属図書館本館では、平成16年4月より図書館資料の貸出対象を一般の学外者まで拡大し、運用を行なっています。以下ではその趣旨や概要、今後の課題について報告いたします。

（１）サービス拡大までの経緯

従来、図書の貸出対象は基本的に学内者（学生、教職員）のみであり、学外の方は図書を閲覧・複写することしかできませんでした。しかし、本学の法人化を機に地域社会・生涯教育に一層の貢献をはかるため、貸出サービスを本年度から学外者まで拡大する案を立ち上げ、それが昨年末の附属図書館商議会で承認を得、実現することとなりました。

（２）二つの責任

サービスの実施に向けて、二つの責任を負ったと言えます。一つめは上で述べたように、学外者へのサービス内容を向上させ、もって社会へ一層の貢献を果たすことです。しかし一方で、そのことによって学内の利用者の研究・教育活動に支障が出ることの無いよう、細心の注意を払う必要がありました。具体的には、

- ①貸出資料の範囲
- ②貸出冊数および貸出期間
- ③貸出可能な時期（学生の利用が増える試験期は貸出をするべきではない）

- ④貸出資料を延滞した場合のペナルティ

以上の点を他大学の先行事例も参考にしながら検討しました。その結果、学外者貸出の具体的内容を以下のとおり決めました。

（３）制度の概要

- ①学外者が貸出を受ける目的は、研究・調査・学習とする。

- ②貸出可能な図書は一号館の開架図書および閉架図書。ただし、新着コーナー本、貴重書等を除く（新着本を対象外としたのは、最新の図書については特に学生の利用を優先したため）。

- ③冊数は合計で2冊まで、期間は3週間。

- ④本学学生の試験期およびその前の2週間は貸出を行なわない。

- ⑤貸出図書を延滞した場合、その日数と同じ分だけ貸出を停止する。1ヶ月以上の延滞については貸出資格を取り消す。

上記の点を了解していただいた上で利用者登録をしてもらうよう、登録を希望される方々には制度の趣旨・概要を簡単にまとめた印刷物を配布しています。係内においては、マニュアルを整備し、昨年度から数回にわたってミーティングを行ない、新サービスの円滑な実施に向けて準備を進めました。

貸出の開始から現在まで約2ヶ月が経過していますが、次節以降で現状と今後の課題について述べたいと思います。

（４）利用状況

学外の方がどの程度貸出サービスを利用しているか、数字を見ながら検討してみたいと思います。

ホームページや館内掲示により広報に努めた結果、4月からの2ヶ月で利用証の発行を受けた学外者は200名に上ります。また、借りられた図書の総数は81冊です。つまり、登録者は一人当たりおよそ0.4冊の図書を借りたことになります。

ちなみに同じ時期に、一人当たりになると本学の学部生は約1冊、大学院生は約1.4冊、図書を借用しています。

①利用証申請から発行までには2週間を要しており、申し込みと同時に図書は借りられないこと

②上で述べたように貸出冊数は2冊までであり、学部生（開架図書5冊、閉架図書5冊）や大学院生（開架図書5冊、閉架図書50冊）に比べて少ないこと

以上の点を考慮すれば、学外者への貸出は今までのところ順調であると言えるのではないのでしょうか。

（５）今後に向けて

本サービスについては、貸出冊数等の利用条件が適切なものであり続けるよう、定期的に検討を加えていく必要があります。それらは現状のままでよいのか、あるいは拡大した方がいいのかという点を、学内利用者の研究・教育支援という使命を見失うことなく、かつ学外者の利用動向を考慮の上、判断していきたいと考えています。

平成16年度新入生オリエンテーションの開催

情報サービス課 参考調査係

平成16年度の新入生のための図書館オリエンテーションを、4月8日～4月14日（土日を除く。1日3回）の期間、当館視聴覚室で開催した。

当オリエンテーションは、4月に新しく入学した学部生・大学院生が、図書館を利用するための最低限の知識をガイダンスすることが目的で、この3日間で約550名の参加があった。

内容は、前半を図書館ビデオの上映、図書館

員の口頭による補足説明とし、後半に実際、図書館見学会を行い、説明によってつけた知識を実際見る事によって印象づけを狙った。

補足説明を行う講師と見学会引率者は、情報サービス課を中心に情報管理課、総務課から応援を募り、無事5日間、計15講演を成功の内に終了させた。

終わりに、この紙面を借りてご協力頂いた館員各位に、感謝の意を表したい。

平成16年度蔵書検索講習会（初級編）の開催

情報サービス課 参考調査係

平成16年度蔵書検索講習会（初級編）を、4月23日～4月27日（土日を除く。1日2回）の期間、当館システム研修室で開催した。

当講習会は、当図書館の蔵書を扱う際に最も基本にして重要な Online Catalog システムについて最低限の知識を講習することが目的で、この3日間で約60名の参加があった。

内容については、前半に Online Catalog の説明と実習を行い、後半に練習問題を通して、前半で得た知識の定着を狙った。

講師と講師補佐は、参考調査掛と情報サービスワーキング・グループから選出し、無事3日間、計6講演を成功の内に終了させた。

広報は、掲示ポスター、図書館ホームページを通じて行い、また今回からは、学部教務掛から全教官へ授業内での周知をお願いするメール配信の依頼や、生協食堂での広告配布作業も行った。

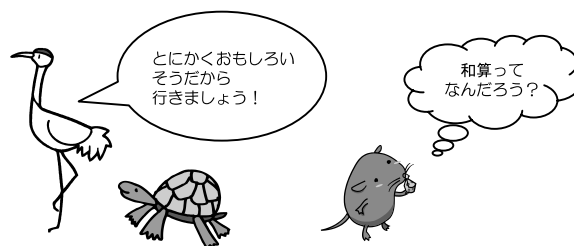
終わりに、この紙面を借りてご協力頂いた館員各位に、感謝の意を表したい。

平成16年度特別企画展についてのお知らせ

テーマ：「江戸の数学ーいま，和算がおもしろい！ー」

期 間：平成16年10月29日(金)～11月7日(日)

場 所：附属図書館



第35回東北地区国立大学図書館協会総会

表記会議が，4月22日(木)宮城教育大学が当番館となり，仙台ガーデンパレスを会場として東北地区7大学から23名が参加して開催され，次の協議題について協議が行われた。

- 1) 第51回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について
- 2) 法人化後の職員採用二次専門試験について
- 3) 文献画像伝送システム(DDS)の利用促進に向けての東北地区での取り組みについて
- 4) 相互利用関係諸規程の整備について
- 5) 国立大学図書館協会の正会員としての加盟について
- 6) 国立大学図書館東北地区防災連絡網について
- 7) 次期当番館について

その結果，次のとおり決定した。

1. 文部科学大臣に対して特に要望すべき事項について
 - 1) 二次データベースの導入経費を要望する。
 - 2) 学生用図書経費について増額を要望する。
2. 総会のワークショップで取り扱うテーマについて
 - 1) 法人化後の職員採用二次専門試験について
3. 平成16年度地区選出の理事候補館について
 - ・東北大学(地区連絡館を兼ねる。)
4. 次期当番館について
 - ・山形大学

(総務課)

会 議

◎学 内

16. 5.13 平成16年度第1回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 運営会議の持ち方について
- 2) 中期目標・中期計画について
- 3) 附属図書館事務組織の見直し・再編について

4) その他

・報告事項

- 1) 学術情報整備に関する経費要求について
- 2) 東北地区国立大学図書館協会総会について
- 3) 一斉休暇について

附属図書館商議会商議員名簿

平成16年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	大 西 仁	官 職 指 定 (14. 11. 6～17. 3. 31)
図 書 館 副 館 長	今 泉 隆 雄	官 職 指 定 (14. 12. 1～16. 11. 30)
医 学 分 館 長	佐 藤 洋	官 職 指 定 (15. 12. 1～17. 11. 30)
北 青 葉 山 分 館 長	井 原 正 隆	官 職 指 定 (15. 4. 1～17. 3. 31)
工 学 分 館 長	江 村 超	官 職 指 定 (15. 4. 1～17. 3. 31)
農 学 分 館 長	谷 口 旭	官 職 指 定 (15. 4. 1～17. 3. 31)
情報シナジーセンター長	根 元 義 章	官 職 指 定 (13. 4. 1～17. 3. 31)
総 長 主 席 補 佐	磯 谷 桂 介	官 職 指 定
文学研究科教授	鈴 木 岩 弓	14.10. 1～17. 3.31
教育学研究科教授	秋 永 雄 一	16. 4. 1～17. 3.31
法学研究科教授	南 基 正	16. 4. 1～18. 3.31
経済学研究科教授	安 田 一 彦	16. 4. 1～17. 3.31
理学研究科教授	高 木 泉	16. 4. 1～18. 3.31
医学系研究科教授	里 見 進	11. 4. 1～18. 3.31
歯学研究科教授	奥 野 攻	13. 4. 1～17. 3.31
薬学研究科教授	岩 渕 好 治	16. 4. 1～18. 3.31
工学研究科教授	岸 野 佑 次	15. 4. 1～17. 3.31
農学研究科教授	國 分 牧 衛	15. 4. 1～17. 3.31
国際文化研究科教授	島 途 健 一	15. 4. 1～17. 3.31
情報科学研究科教授	尾 畑 伸 明	16. 4. 1～17. 3.31
生命科学研究科教授	嶋 田 一 郎	15. 4. 1～17. 3.31
環境科学研究科教授	千 田 侑	15. 4. 1～17. 3.31
教育情報学研究部教授	村 木 英 治	14. 4. 1～18. 3.31
金属材料研究所教授	後 藤 孝	15. 4. 1～17. 3.31
加齢医学研究所教授	佐 竹 正 延	14. 4. 1～17. 3.31
流体科学研究所教授	小 濱 泰 昭	16. 4. 1～18. 3.31
電気通信研究所教授	長 康 雄	16. 4. 1～18. 3.31
多元物質科学研究所教授	平 澤 政 廣	15. 4. 1～17. 3.31
東北アジア研究センター教授	磯 部 彰	16. 4. 1～18. 3.31
大学教育研究センター教授	関 内 隆	8. 4. 1～17. 3.31

人 事 異 動

平成16年 6 月30日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
16. 3. 31		湯 田 美喜子	事務補佐員（北青葉山分館整理・運用係）	辞 職
16. 4. 1	事務部長	内 藤 英 雄	名古屋大学附属図書館事務部長	採 用
〃	総務課課長補佐	高 橋 信 野	医学部・医学系研究科専門員	配置換
〃	工学分館図書館専門員	佐々木 勝 義	情報管理課図書館専門員	〃
〃	情報管理課図書館専門員	菊 地 房 雄	岩手大学附属図書館図書館専門員	採 用
〃	岩手大学情報メディアセンター図書館専門員	吉 川 和 幸	情報サービス課相互利用掛長	出 向
〃	情報管理課受入係長	阿 部 佳 市	工学分館管理掛長	配置換
〃	情報管理課図書情報係長	佐 藤 博 子	宮城工業高等専門学校庶務課図書係長	採 用
〃	情報サービス課参考調査係長	大 原 正 一	医学分館運用掛長	配置換
〃	情報サービス課閲覧第二係長	佐 藤 初 美	文部科学事務官多元物質科学研究 所総務課研究協力掛	昇 任
〃	情報サービス課相互利用係長	對 馬 庸 二	仙台電波工業高等専門学校庶務課図書係長	採 用
〃	医学分館運用係長	横 山 美 佳	文部科学事務官（情報管理課雑誌情報掛）	昇 任
〃	工学分館管理係長	日 出 弘	情報シナジーセンター学術情報支援掛長	配置換
〃	情報シナジーセンター学術情報支援係長	照 内 弘 通	文部科学事務官（総務課情報企画掛）	昇 任
〃	宮城工業高等専門学校庶務課図書係長	内ヶ崎 洋 一	情報サービス課参考調査掛長	出 向
〃	仙台電波工業高等専門学校庶務課図書係長	芳 賀 博	情報管理課受入掛長	〃
〃	図書一般職員（総務課情報企画係）	永 井 伸		採 用
〃	図書一般職員（情報管理課受入係）	木戸浦 豊 和	文部科学事務官（情報サービス課 閲覧第二掛）	配置換
〃	図書一般職員（情報管理課雑誌情報係）	半 澤 智 絵	文部科学事務官（農学分館図書掛）	〃
〃	図書一般職員（医学分館総務係）	真 籠 元 子	文部科学事務官（医学分館整理掛）	〃
〃	図書一般職員（医学分館整理係）	今 出 朱 美	文部科学事務官（工学分館管理掛）	〃
〃	図書一般職員（医学分館運用係）	福 井 ひとみ	文部科学事務官（医学部保健学科図書室）	〃
〃	図書一般職員（工学分館管理係）	早 坂 幸 子	文部科学事務官（電気通信研究所 総務課図書掛）	〃
〃	図書一般職員（工学分館整理・運用係）	沼 田 幸 子	文部科学事務官（金属材料研究所 総務課図書掛）	〃
〃	図書一般職員（工学分館整理・運用係）	近 藤 真澄美	文部科学事務官（宮城工業高等専 門学校庶務課図書係）	採 用
〃	図書一般職員（金属材料研究所総 務課図書係）	富 田 小満子	文部科学事務官（宮城教育大学附 属図書館整理係）	〃
〃	図書一般職員（多元物質科学研究 所総務課研究協力係）	藤 澤 こず江	文部科学事務官（農学分館図書掛）	配置換
〃	図書一般職員（農学分館図書係）	渡 邊 愛 子	山形大学附属図書館情報サービス 課学術情報係	採 用
〃	図書一般職員（農学分館図書係）	関 戸 麻 衣	文部科学事務官（情報管理課図書情報掛）	配置換
〃	図書一般職員（宮城教育大学附属 図書館運用係）	五十嵐 幸 子	文部科学事務官（工学分館整理・ 運用掛）	出 向

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
16. 4. 1	図書一般職員（宮城工業高等専門学校庶務課図書係）	吉 川 文 子	文部科学事務官（工学分館整理・運用掛）	出 向
〃	事務補佐員（総務課庶務係）	渡 部 信 子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	配置換
〃	事務補佐員（総務課庶務係）	鈴 木 里江子	事務補佐員（宮城教育大学入学主幹付入学試験係）	採 用
〃	（准職員）事務補佐員（情報管理課図書情報係）	志 田 千恵子	事務補佐員（情報管理課受入掛）	配置換
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一係）	菅 原 愛 子	技術補佐員（工学部・工学研究科）	採 用
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第二係）	寺 窪 尚 子		〃
〃	事務補佐員（医学分館運用係）	小 松 武 彦		〃
〃	事務補佐員（北青葉山分館管理係）	小 林 有 子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一係）	〃
16. 5. 1	事務補佐員（医学分館運用係）	穴 戸 友 紀		〃
〃	事務補佐員（医学分館整理係）	谷 由紀子	事務補佐員（医学分館運用係）	配置換
16. 6. 30		我 妻 江 美	事務補佐員（情報管理課受入係）	任期満了

編 集 後 記

4月当初の、あわただしい時期も過ぎ、梅雨の季節となりましたが、今年は雨の日が少なく過ごしやすいが続いています。

さて、4月から国立大学法人がスタートしました。

法人化は、国立大学の経営改革であり、今後の国立大学には、自己責任と社会への説明責任が求められるといわれております。

従来にも増してより一層業務の合理化、効率化が求められています。

本館においては、法人化に伴って、学外者への図書貸出等のサービスを開始しました。

開始2ヶ月余ですが、大きなトラブルもなく、順調に運営がなされております。

木這子編集委員も任期満了等により、メンバーが替りましたが、今年度も編集委員一同、図書館の活動を伝え、役立つ情報を紹介するとともに、利用者にとっても親しみやすい内容を目指していきます。皆様のご支援をよろしくお願いします。（T）

○ 平成16年度広報委員会委員

委員長 諏訪田義美

* 高橋信野、宮本博芳

* 木戸浦豊和、* 吉植庄栄

* 湯目昌史、* 尾田陽子、佐藤優美子
渡邊愛子、白石光雄

注）*印は、木這子編集員

東北大学附属図書館報「木這子」 第29巻第1号（通巻106号）発行日 平成16年6月30日

発行人 内藤 英雄 広報委員長 諏訪田 義美

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5911, FAX 022-217-5909
URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>